

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・ 県		
学校名	管理機関名	設置者の別
三木市立志染小学校	三木市教育委員会	国・ 公 ・私

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1・2学年の「生活科」6時間を削減して、「外国語活動」に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

三木市においては、次代を担う子どもたちに、ふるさとの歴史や文化、とりわけ伝統産業である三木金物の素晴らしさを伝え、我がまち三木市を愛する豊かな心を育むとともに、ものづくりを通じて自ら考え、生きる力を育成してきた。これまで取り組んできた「ふるさと教育」や「心の教育」を基盤として、今後のグローバル化に対応できる子どもたちを育むため、小学校低学年から「聞く」「話す」体験を中心とした「外国語活動」に取り組む。

(3) 特別の教育課程に基づく教育の実施状況

ア 実施体制

- 1 低学年において毎学期に2時間ずつ、外国語活動の時間を設けた。
- 2 毎年11月に全校実施しているイングリッシュウィークを今年度は11～12月にかけてイングリッシュウィークを実施した。

イ 指導計画及び授業の内容

- 1 英語でのあいさつ、数字、曜日などの英語に親しめるように、ビンゴやカルタを用いたレクリエーション形式の活動を行った。
 - ・ALTの出身国の夏休み、ハロウィン、クリスマスといった季節の行事について聞いて外国の文化に親しんだ。ALTが写真を示しながら簡単な英語で紹介した。
- 2 朝の会や終わりの会、各授業のあいさつを1週間英語で言う機会を設けた。
(イングリッシュウィーク)

(4) 情報提供の状況

- ・学校アンケートで児童、保護者に外国語授業についてのアンケートを取り、児童が外国語活動を楽しんでいるか把握し、その結果を数値化し地域に公開している。
- ・オープンスクールで全保護者へ6年生の外国語科授業を公開し、アンケートで意見や感想を頂き、指導の改善に活かしている。

(5) 特例の適用開始日及び、取組の期間

- ・特例の適用開始日 : 平成28年4月1日

- ・変更した特例の適用開始日：令和2年4月1日
- ・取組の終期：令和5年3月31日

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

- ・本校の学校教育目標は「心豊かに 元気よく 主体的に学ぶ子の育成」、本年度の重点目標の1つに「確かな学力の育成」を掲げている。本校では1, 2年生はALTとゲームを取り入れて英語が楽しい、話したいと思える授業を目指した。3年生からはフォニックスの学習を取り入れて基本的な読みの英語を聞いたり読んだりしている。5, 6年生では話すこと・聞くことに加えて中学校の英語科に向けて英語の読み書きの指導も行っている。そのため指導を系統立て、主体性とともな学力が身につくように心がけている。併せて教職員は専門家によるフォニックスの指導研修や外国語科の指導に関する研修に参加し、指導力の向上を図っている。

(2) 実施の効果

- ・児童へのアンケート結果から全体の9割以上の子どもが外国語を学ぶことは楽しいと答えている。学年別に見ても、どの学年においても9割以上が楽しいと回答をしている。低学年は早期から簡単な英語や英語圏の文化に親しむことで関心をもち、中学年は抵抗なく活動し、高学年の外国語科の学習につながっているのではないかと考える。
- ・休み時間や掃除の時間には、自分から英語を使ってALTにあいさつをする様子が当初より多く見られている。この様子からも、1年生1学期から外国語の授業を行うことでALTへの親しみやすさを覚え、もっと関わりたい、英語で話してみたいという意欲が高まると考える。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・外国の文化や様子がわかる掲示物を廊下に貼って関心を持つことができるようにしたり、コロナ渦でできなかった給食中の交流を徐々に再開したりして今後も児童がALTとの会話をより楽しくできるようにしたい。